



Title	「文化」の解読(21) : 文化と伝統 はしがき
Author(s)	
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2021, 2020
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84988
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

はしがき

ここに刊行するのは、「言語文化共同研究プロジェクト 2020」の一環として、「〈文化〉の解読 (21) ー文化と伝統」という名称の下、合計 4 名によって行なわれた共同研究の成果報告書である。メンバーのうち、2 名は大学院言語文化研究科に所属する教員、1 名はマルチリンガルセンターに所属する教員であり、1 名は大学院言語文化研究科博士後期課程に在籍している。

「〈文化〉の解読」をメインテーマとする共同研究プロジェクトは 2000 年に発足した。過去のサブテーマは以下のとおりである。「文化の意味作用について」(2000 年度)、「〈文化空間〉の政治学」(2001 年度)、「文化の政治性／政治の文化性」(2002 年度)、「文化批判の機能をめぐって」(2003 年度)、「文化生産の諸相」(2004 年度)、「文化受容のダイナミクス」(2005 年度)、「システムとしての文化」(2006 年度)、「想像力としての文化」(2007 年度)、「文化とアイデンティティ」(2008 年度)、「文化と身体」(2009 年度)、「文化とトポス」(2010 年度)、「文化と歴史／物語」(2011 年度)、「文化とコミュニティ」(2012 年度)、「文化と公共性」(2013 年度)、「文化と翻訳」(2014 年度)、「文化と権力」(2015 年度)、「移動と衝突の文化現象」(2016 年度)、「神話的なものとその解体」(2017 年度)、「文化とメディア」(2018 年度)、「文化と記憶」(2019 年度)。21 年目となる 2020 年度は、「文化と伝統」というテーマを掲げて、本プロジェクトを遂行した。

収録した 4 本の論文の内容は、以下のとおりである。アウマン論文は、中国古典哲学の黄金時代をめぐる諸説を比較しつつ、そもそも黄金時代という時代設定は可能かどうか、それは神話、あるいは、修辞的手段にすぎないのではないか、という問いに取り組んでいる。徐論文は、溝口健二の映画『お遊さま』における女同士の欲望や絆に着目し、谷崎潤一郎の原作小説とも比較しつつ、1950 年代の映画製作という枠組みの中での「レズビアン表象可能性」を探っている。山本論文は、ヴィスコンティの『ベニスに死す』をトーマス・マンの原作小説と比較しつつ、視線のアダプテーションという観点から具体的な分析を試みている。津田論文は、村上春樹の『ノルウェイの森』における二人の男性（ワタナベとキズキ）のホモソーシャル関係と女性（直子）の譲渡という構図に着目し、ワタナベと直子の関係がつねにキズキによって媒介されており、ワタナベがキズキの代行者の役割を演じていたことを論じている。

昨年以來、大学もこれまで経験したことのないような種類の混乱に見舞われている。コロナ禍の一日も早い収束を祈るばかりである。

2021 年 4 月

執筆者一同